HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	大人の本気「痛タク」誕生記 ： 札幌痛タク実行委員会委員長の本音トーク
Author(s)	竹内, 紀仁; 山村, 高淑
Citation	コンテンツツーリズム論叢 : Collected Treatises on Contents Tourism, 1, 6-11
Issue Date	2012-08-12
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/51834
Type	other
File Information	CTCT001_001.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

大人の本気「痛タク」誕生記
―札幌痛タク実行委員会委員長の本音トーク―
札幌痛タク実行委員会委員長・長栄交通株式会社営業企画課課長 竹内紀仁氏
×聞き手 山村高淑

痛タクのトランク部分の拡大。
女神さま（右）と花代美湖（はなしろみこ）通称かよ。

二〇一二年六月四日、何の前宣伝も無く突如札幌の町中に姿を現し、一般市民を良い意味で大混乱（笑）させた「痛タク」。３年前から毎年六月に行われている洞爺湖温泉でのイベント『ＴＯＹＡＫＯマンガ・アニメフェスタ』を、誰に頼まれるでもなく勝手に（笑）、そのうえ熱く盛り上げるため、札幌市内のタクシー会社「長栄交通」さんが、今年春、発案した企画。何とか「北海道を元気にしたい」という長栄さんの真っ直ぐすぎる熱意に打たれ、次々と道内の有志が企画に賛同、いつの間にか「札幌痛タク実行委員会」なる謎の任意団体が結成されました。その後、様々な、これまた熱い議論を経て、六月頭、今年のＴＯＹＡＫＯマンガ・アニメフェスタの公式キャラクター、深翠うりさん原案の「花代美湖（はなしろみこ。通称かよ）」と「女神さま」を、ドラマチッククリエイション&エンターテイ

メント企画さん制作で車体にフルラッピングした第一号が完成したわけです。

今回は、この企画の発案者であり、また「札幌痛タク実行委員会」委員長でもある長栄交通の竹内紀仁さんに、これまでのご苦労と今後に向けた思いを語って頂きました。

今年の TOYAKO マンガ・アニメフェスタのオープニングパレードで、堂々の先頭をつとめる痛タク(2012 年 6 月 23 日)

山村★今年のＴＯＹＡＫＯマンガ・アニメフェスタのパレードでは、なんと痛タクが先頭を走っちゃいましたよね。しかも「同人」と書かれたぼんぼりを屋根に付けて（笑）。今日はちょっとだけ裏話をお聞かせ頂ければと思います。どうぞ宜しくお願いします。

竹内★偽善団体「札幌痛タク実行委員会」委員長の竹内です。慈善じゃなくてあくまでも偽善です（笑）。そこのところを宜しくお願いします（笑）。

山村★はい（笑）。さて、早速なのですが、今回、企画からフルラッピング車両の完成まで、相当時間が限られていましたよね。本当に大変だったと思うのですが、どの辺が一番ご苦労されたところですか？

竹内★やはり私どもは法人としてタクシー会社を経営しているわけですので、ビジネスのタイミングを逃すわけにはいかないんですよね。どこで仕掛けるか。そのタイミングについては常に社内で話していたんです。ベストは「よさこいソーラン祭り」の頃かなと。祭りとは全く関係ない、横やり的な事をやった方が面白いのかな、みたいな考えもありましたしね（笑）。いずれにしても、お力添え頂いた皆さんが本当に尽力して下さって、このような素晴らしい形で間に合わせることが出来ました。弊社としてはもう、ただただ感謝です。それだけなんです

よね。本当に。

山村★本当に実行委員に名を連ねて下さった様々な方々の力が結集した感じでしたよね。ところでそもそもこの企画が長栄交通さんの中で上がってきたのはどういった経緯なんですか？

竹内★去年から考えていた事だったんです。ラッピング車両がつくれないかな、と。ラッピング広告については、例えばバスや電車ではよく見かけますよね。そういうものを何かタクシーで出来ないかな、と模索していたんです。で、今年二月くらいに具体的に社内で話に上ってきたんです。

時計台と痛タク。だんだん市内の風景にも自然となじんできたようで…（笑）。

山村★元々、長栄さんでは、「札幌を元気に」をコンセプトに、タクシーの車内で、市内の事業主さんの無料広告等やられてましたよね。

竹内★そうですね。車内ではやっていたんですけど、その発展形で企業さんに「車外・車体にまで広告貼るのは如何ですか」と持ちかけても、どこもやっぱり引くんですよね。あまり先行事例も無いから効果があるということも実感としてお分かりいただくのが難しいんです。

それで思い立って、有名な某キャラクターのラッピングができないか問い合わせたのですが、ダメでした。さぁどうしたものかと。その時にいろんな方向にアンテナは張っていたんですけども、ひょんなことから札幌でラジオＤＪや国際交流イベントを主催されている多文化交流家の三浦嘉大さんと繋がって。で、「それじゃ山村先生とジャン君に会いに行こう」って。なんの脈絡もなく（笑）。あれが本当のスタートでしたね。

そしてあそこから二転三転を繰り返したんですけれども、やっぱりこの方向だと決まった時には、やっぱり実行委員会の皆さんの歯車がガチっとかみ合って。本当に動き出すべくして動き出してくれた！と感じました。

山村★今回の「ＴＯＹＡＫＯマンガ・アニメフェスタ・かよちゃん＆女神さまバージョン」車両はいつまで営業のご予定なんですか？

右サイドは女神さま。

竹内★今のところ八月一杯ぐらいで考えています。本当はラッピングの耐久性がある限りは続けたいんです。

今回ラッピングを印刷してもらった業者さんからは通常「3年から5年は持つ」なんて言われてるんですが…。3年から5年の幅ってどういう意味なんだか私にも分からないんですけどね（笑）…。でもやっぱりボンネットなんかはどうしてもエンジンの熱のせいですぐ色が抜けていくんですよね。雪の問題もあります。そういうことをいろいろと考えると、おそらく冬を越えられないんじゃないか。

でも、来年のフェスタまで持たせて、来年の新バージョンと一緒に乗り付けたいという願いはあるんですよね…でも実際のところどこまで持つのか、今は未知数です。弊社の一作目ですからね。試験的な意味合いもかなりありますので。本当は持つところまでやってみたいというのが正直な気持ちです。

山村★長期的に第2弾、第3弾、第4弾と長期的にラッピング車両の展開をお考えで？

竹内★そうですねぇ～今はまだ具体的なことを公にできないんですよ～（笑）。でも一回で終わらす気は毛頭ございません。大丈夫です、ご安心下さい。

山村★今後に向けての抱負を。

竹内★私は何一つ出来ない自信がある人間ですからね（笑）。

人に頼らなければ何事も無し得ないという事はよく分かっているんです。今回1台目が完成したとき、いろいろと批判的な意見もありました。でも、やっていくうちに、たった1台のタクシーで、ここまで世の中で勝負することができるということがわかったんです。それが面白かったですね。

やっぱり札幌市というのはどう見ても疲弊して元気がない。そんな中で、私自身は「元気出せや」というほどの者でもないんですけども、「こんな車がドーンとまちに出てきたら自分も負けてられないわな」とまちの皆さんが思ってくれればな、というのが私の願いです。

先ほども言いましたが、これ1台で終わることはありませんので。かなりとんでもない話になっていくかも知れません(笑)。それはまたのお話ということで…。

山村★いや、本当に楽しみです！一部ネットでも「痛タク」じゃなくて、「大人の本気タクシー」という別名が付いてましたしね（笑）。

竹内★はい、是非またの機会に進捗をお伝えできればと思います！

山村★今日は本当にありがとうございました！

（注）本対談は、二〇一二年六月二十三日（土）16:30～17:30にTOYAKOマンガ・アニメフェスタの一環として、洞爺湖サミット記念館にて開催された「観光まちづくりワークショップPart2／特別企画:札幌痛タク実行委員会！」でのトークショーの一部を文章化したものです。なお文章化に当たっては一部表現をわかりやすく改めています。文責は全て札幌痛タク実行委員会にあります。

北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）〈国指定重要文化財〉の前で

※札幌商工会議所（2012年6月現在）

○長栄交通株式会社
http://www.choei-taxi.co.jp/event/index.html
○洞爺湖マンガ・アニメフェスタ
http://www.toyako-prj.net/tmaf/
○北海道アニメーションプロジェクト＋A
http://www.plus-a.in/
○ドラマチックエンターテイメント企画
http://www.dorakue.com/
○スピンデザイン
http://www.spindesign.jp/
○ラブ・ライツ・ラボ
http://love-lights-lab.com